

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和6年8月19日（月）午後1時30分～午後3時30分
2. 場 所 浦安市文化会館3階大会議室
3. 議 題
  - (1) 第1回検討委員会でいただいたご意見について
  - (2) アンケート調査結果と分析について
  - (3) 使途（素案）について
  - (4) 課税要件（素案）について
  - (5) 使途の明確化と公表の仕方について
4. 議事の概要
  - (1) 第1回検討委員会でいただいたご意見について
    - ・事務局説明
  - (2) アンケート調査結果と分析について
    - ・事務局説明
  - ▶ 委員長
    - ・ アンケートの回答結果の中でも、宿泊税の使途の結果に注目した。宿泊者・住民アンケート結果では、インフラ・環境整備に対する意識が高い一方、観光情報発信に対する関心は必ずしも高くない。今後、浦安市における宿泊税の使途を考える上で重要である。アンケート結果からは、税額について300円という目安が示されていることを意識する必要があり、また、教育旅行に関する配慮についても検討する必要がある。
  - ▶ 委員
    - ・ 教育旅行については、前回検討会で価格の需要弾力性に関する発言があったが、アンケート結果で示されている程度の金額であれば気にならないのではないかと。それより千葉県と浦安市で免税点などの基本的な構造が異なってしまうことの方が特別徴収義務者の負担となるため、考慮する必要がある。
  - ▶ 委員
    - ・ 宿泊者アンケートで、宿泊税の金額が300円までであれば76%が許容できる点は、意見として大きい。この範囲の中で浦安市が必要な費用を徴収して使っていくという方向で見定めることができるのではないかと。
    - ・ 観光客の中で修学旅行の割合が5%程度であり、金額的には大したこ

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

とはないかもしれないが、100円、200円の差が宿泊場所の決め手になる可能性もある。修学旅行を免税した結果、将来の来訪につながるのであれば、他都市で免税の実績があることも踏まえて、(修学旅行生の課税免除について)十分に議論すべきではないか。

- ・ 宿泊者や観光客が来た際の観光案内をもう少し工夫すればスムーズになるのではという声も耳に届いているため、宿泊税の使途を考える際にはそこも含めてほしい。

### ▶ 委員

- ・ 宿泊事業者として全ホテルを網羅しているわけではないが、(宿泊税に関する)地元の方のご意見というものを注視している。アンケートの回答結果を見ると、(事業者と住民の宿泊税に関する)方向性について、乖離していないことが確認できた。宿泊事業者としては、教育旅行は営業収入の支柱であるため、宿泊税導入によって教育旅行が縮小しないよう課税免除を導入してほしいという強い希望を持っている。

### ▶ 委員

- ・ 宿泊料金の平均単価が事業者と宿泊者の回答結果で異なるが、これは客室数による影響があるのではないか。資料 p20 (特定の宿泊者への課税免除)の回答も客室数で重み付けをすると免税点を設定した方がよいという意見が大きくなるのではないか。

### ▶ 委員

- ・ 教育旅行誘致のために全国をまわっているが、金額面で苦慮している様子を多く伺う。(浦安市の競合都市である)東京都や神奈川県は宿泊税の状況を考えると、導入によって競争力が下がるのではないかと懸念している。教育に関わる費用負担は全国的に問題になっている。浦安市は教育旅行が集まる場所であり、(教育旅行は)課税免除の方向で検討してほしい。

## (3) 使途 (素案) について

- ・ 事務局説明

### ▶ 委員長

- Q. 示されている事業規模が令和6年度の事業予算であり、宿泊税導入前のものであるが、宿泊税導入後も同程度の事業規模額という認識でよいか。

### ▶ 事務局

- A. お示した資料は令和6年度事業の予算額であり、今後はどの程度予算計上できるのかは検討段階である。現段階では、施策規模は約37億ということでご検討いただきたいと考えている。

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

➤ 委員

Q. 今後については、使い道を含めて新たに検討するということか。

➤ 事務局

A. その通り。

➤ 委員

・ MICE の振興をしているので、使途に MICE 振興を含めていただいているのはありがたい。一般の人にはあまりなじみのない概念なので、具体的なご説明でご理解いただけるようお願いしたい。何か必要なことがあれば、最大限協力したい。

➤ 委員

Q. 宿泊税を活用した事業予算額の赤字部分は、新たに追加した項目か。

➤ 事務局

A. 赤字は、今回のアンケート結果及び先進自治体で実施している施策の中で浦安市でも実施可能なものという形で追記した。

➤ 委員

・ 事業者からの声として参考までに以下共有したい。地元のバスの運転手は乗客に行先などをよく聞かれるそうで、定時運行に支障をきたす場合もあるとのこと。行先案内、観光案内面について、宿泊税を活用できないか。舞浜駅等に有人の観光案内所を作ってほしい。地元大学のホスピタリティーツーリズム学部と連携して観光ボランティアは検討できないか。現在のデジタルサイネージは事業者にとって使い勝手が悪いいため、宿泊税の使途としてデジタルサイネージの改善はふさわしいのではないか。どのバスに乗ればどのホテルに行けるのかを示す案内看板の設置などといった意見をいただいている。意見書は追って提出したい。

➤ 委員

Q. 宿泊税を活用した事業予算額について、今年度すでに組まれている予算として約 37 億円と示されているが、昨年ほどの程度であるか。

➤ 事務局

A. 今すぐに確認できない。

➤ 委員

Q. 宿泊税の使途を考える際に、観光関連についてこれまでの事業では不十分であるために宿泊税収入で追加的な事業として賄うという考え方と、観光客対応のために市民サービスに使えなかった予算を確保するために、既存の観光客対応の事業を宿泊税収入から賄うという 2 つの考え方があると思う。市民アンケート調査結果では半数程度が後者を期待している。宿泊税収入はこの 2 つの考え方を基本とするのではないか。以上を踏まえると、現行事業である約 37 億円を前提とした

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

考え方には違和感がある。

### ▶ 事務局

- A. あくまでも全体の予算額として示している。事務局としては、観光客に対応する受入環境整備ということに宿泊税を充てるということを第一に考えている。市の予算で観光施策・事業を進めていきたいと考えているが、宿泊税を充当する事業はどこにするのかというところを重点的に考えたい。

### ▶ 委員

- Q. 例えば救急車の発動が多くなっていることから宿泊税を徴収した方が良くといった背景があったと思う。これを踏まえると、観光客増加によって割かれてしまった市民サービス分を宿泊税から充当するという考え方が含まれていないといけないのではないか。これまで通常の前算で行っていた観光に関する事業の一部が宿泊税から充当されることになるため、通常の前算で行っていた観光に関する前算を一部削るということにならないと筋が通らないのではないか。

### ▶ 委員長

- Q. 私の理解で述べると、観光客の増加によって市民サービス提供にかかる金額が不足しているということは当然あると思うが、宿泊税という税である以上、直接的な用途は宿泊に関係するものに用いることが原則。ただ、その分、約37億円という規模を維持するものとして、宿泊税の財源が投入されることによって浮く部分がある。そこは市民に戻る形になると考える。宿泊税を観光目的のどの部分に用いるのか、今回の資料のように、この規模を維持するのか、もしくは宿泊税を新たに徴収することから、更に増やすべきかという議論出てくると思う。一つの目安として、37億円の部分に宿泊税を導入するという形になると、そういう理解でよいか。

### ▶ 事務局

- A. 本日の資料は、あくまでも宿泊税の用途の項目や金額の規模感の目安として令和6年度前算を示した。具体的な用途の内容や金額について今後検討していく予定である。金額を示したのは税率前算の目安を示すために提示した。

### ※観光コンベンション協会提出資料について委員からの資料説明

- ・資料説明

### ▶ 委員長

- ・浦安市の現況について改めて確認できた。浦安市は世界規模の観光地を持つベッドタウンという極めて特殊な地域であると認識した。その上で、どのように運営していくのか、ということは具体的な制度設計の中で考えていきたい。

### (4) 課税要件（素案）について

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

- ・事務局説明
  
- 委員長
  - ・ 今回の事務局案は、千葉県の宿泊税検討結果を踏まえて齟齬が出てないように作られた案と理解している。ただ、ここまでの議論の中でも出てきたように、浦安市としての考え方を踏まえて議論してほしい。
  - ・ 浦安市の宿泊者数の前提について、千葉県の検討の前提から1千万人が導出されているが、実績は800万人程度であるため、実績よりも大きな値を仮定することには懸念があるため、800万人で考えた方がよいのではないかと思う。
  
- 委員
  - ・ 令和4年度の宿泊客数は514万人泊であるため、仮定値の1千万人との差が気になる。
  - ・ 宿泊税導入によって需要に水をかけては意味がないので、許容される範囲で設定するというのが筋ではないか。アンケート結果を見ると200円は許容できるが、300円だと意見の分かれるところというところが相場観である。また、修学旅行は多くの人が必要が減ると考えているので、課税対象から除外するというのが通常ではないか。
  
- 委員長
  - ・ 修学旅行を課税対象とするかは、県との調整の課題になると思う。県は課税免除を想定していないようだが、浦安市では修学旅行者が減少することは金額にも大きな影響を与えることになるかと予想している。これらの状況を県に伝えて頂き調整をする必要があると思う。県内の宿泊客数の約1/3は浦安市であることから、県が宿泊税導入した時の税収の約1/3は浦安市から発生するというのを考えていただく必要があると考える。
  
- 委員
  - ・ 教育旅行が価格にシビアという点はこれまでの経験からもよくわかる。ただ、浦安市に宿泊する修学旅行でTDRを訪れる層は、浦安市が価格競争で勝ったから来ているわけではないという印象がある。この税率であれば十分耐えうるのではないか。ただ、宿泊事業者がリスクを犯したくない、浦安市が他都市と比べて風評被害等で不利益を被りたくないという意見も理解できるため、県とよく議論してほしい。
  
- 委員長
  - ・ 修学旅行を課税対象とするかは大きな論点となる。
  - ・ 浦安市では、10-12億円という規模の財源を作りたいという意図だと思う。それを踏まえて想定しておく必要がある。税率については、県との相談になるためこの場では決められないが、浦安市としては浦安市で使える財源が欲しいということになると思う。福岡県と福岡市の

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

ように県の税金であるが福岡市が使える余地ができるが、今回想定されているように、県と市で単純に積み上げる形であるとその扱いが難しい部分が出てくる。

- ・ 税金の用途については、県との調整が必要である。浦安市としては、浦安市として使える財源を確保してほしいという要望は県に出さないといけないと思う。
  
- 委員長
  - Q. この場で 100 円を一つの目安として税率の方針を決める必要があるか。
- 事務局
  - A. ある程度税率の方向性を承認していただきたい。
  
- 委員
  - Q. 税率について、現段階では段階的な定額制の導入は想定しておらず、一律の税率という理解でよいか。
- 事務局
  - A. 現段階では、段階的な定額制は検討していない。
  
- 委員
  - ・ ポイントは、金額が 100 円で十分かということと、段階的な税率を併せて考えていくことだと思う。近年、浦安市では高級ホテルが増えており、日本でも有数の観光都市で、これから国際都市となることを想定した上で、その観光予算規模から税率 100 円を鑑みると、ビジョンがかなえられるか甚だ疑問である。浦安市の観光客数、住民数を考えると、金額はもっと大きなものにすべきではないか。
  - ・ 徴収方法については、浦安市でまとめて徴収して県に収める方法でも十分かと思う。
  - ・ 市町村レベルできめ細やかな観光まちづくりが進んでいることから、エリアにあった観光施策、マーケティング戦略が求められている。エリアの広い千葉県においては、場所によってターゲットや施策、商品、プロモーションの方法は異なる。地域の現状を踏まえて、宿泊税を徴収する宿泊事業者とともに、マーケットをみながら観光戦略を作り上げていく必要がある。その徴収や施策の主体は、浦安市で問題ないと思う。
  
- 委員長
  - Q. 県と浦安市で徴収の仕組みを同じものとした場合、特別徴収義務者である宿泊施設で一括して集めてもらうと仮定すると、県と市の 2 階建てだと、事業者は県と市それぞれに納めてもらう形になるのではないか。浦安市として宿泊税を一律定額にしない場合、現実的に徴収業務を行う立場だと負担はどんどん大きくなるものか。
- 委員

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

A. 確かに負担増にはなると思う。ただ、前回検討委員会でも話にあったが、市からシステム補助や報奨金的なものが出るということにつながれば、特段徴収に弊害は出ないと判断している。

### ➤ 委員

- ・ 段階的定額制は、需要から考えると十分に検討できると思うが、宿泊代金が安い方と高い方で受ける行政サービスが大きく異なるわけではない、受益者に平等に負担してもらおうという考え方であれば今の考え方でいいのではないかと。
- ・ 修学旅行については様々考え方があらず。宿泊旅行を受け入れている宿泊事業者のアンケート結果をみたら、修学旅行生に課税することについての懸念がわかるのではないかと。
- ・ 税率 100 円には違和感がある。先ほどの通り、200 円は許容されて、300 円は意見が分かれるという相場観である。算出根拠となる浦安市の宿泊客数が（県の想定と浦安市の実績で）倍程度違うかもしれないと考えると、提案されている 100 円では了承できない。

### ➤ 委員長

- ・ 委員からも税率 100 円について再考を促す意見がでていますが、税率算出の根拠となっている 10 億円ほど必要ということについては合意をいただけたらと思う。どう確保するかということで税率は考えていただけたらいい。（県の想定総宿泊客数から算出した）宿泊客数 1 千万人から 100 円が導かれているが、この仮定も変わる可能性があるため、まずは 10 億円程度の財源確保ということで考えていくのはどうか。

### ➤ 委員

- ・ 10 億円というのも参考値である。今後、頻繁に変更ができないことを想定すると、需要を冷やさない範囲で理解が得られる範囲であれば徴収しても構わないのではないかと。

### ➤ 委員長

- ・ 100 円にこだわる必要はないのではないかと。検討していただきたい。

## (5) 使途の明確化と公表の仕方について

- ・ 事務局説明

### ➤ 委員長

- ・ PDCA サイクルの話が出たが、今回検討している宿泊税の使途を考えると、インフラ整備などがあることから、宿泊税の導入効果は中長期で見る必要がある。その上で、評価の仕組みを考えるべきではないか。浦安市は、世界規模の観光地を持つ特殊なベッドタウンという特徴からベッドタウンとしての使い方は中長期的なものになると思う。人材育成などすぐ効果を出さなければいけないものもあるが、浦安市の宿泊税の使途はもう少し長期的ではないか。

## 第2回浦安市宿泊税導入検討委員会 議事要旨

- 事務局
- ・ 使途について、目安として令和6年度の費用を示したが、改めて整理して示したい。
- ・ 税額算定の根拠となる宿泊客数については浦安市を1000万人とした根拠も改めて整理した上で、検討したい。
- ・ 修学旅行生の課税免除、税率についてもいただいた意見を踏まえて整理し、次回検討したい。

以上